

## 会派視察・研修報告書

会派名 オールたじみ

代表者名 石田浩司

1 日にち	令和5年10月12日(木)・13日(金)
2 視察先 研修名、主催者及び会場	第85回全国都市問題会議 主催：全国市長会、公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所 公益財団法人日本都市センター、八戸市 会場：八戸市公会堂（青森県八戸市内丸一丁目1番1号）
3 参加者	石田浩司、奥村孝宏、成田康弘、黒川昭治
4 調査・研修の テーマ	文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展
5 主な内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・アートの役割って何だろう</li><li>・八戸市の文化・スポーツによるまちづくり</li><li>・まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から生まれる</li><li>・標高差1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出</li><li>・まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用</li><li>・一巡した文化芸術を活用したまちづくり</li><li>・八戸の独自性が生み出してきたもの</li><li>・地域活性化におけるスポーツの役割とその変化</li><li>・スポーツとアニメを活用したにぎわいの創出</li><li>・文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部</li></ul>
6 所感、提言事項、 課題等	<p><b>【議員氏名】石田浩司</b></p> <p>都市問題会議では、都市に関するさまざまな分野にわたる専門家、官民のリーダー、政策立案者が一堂に会し、議論と情報交換が行われます。</p> <p>今回は八戸市で行われ、「文化芸術とスポーツの視点」で二日間にわたり開催されました。一日目は基調講演・一般報告、二日目はパネルディスカッションが行われました。</p>

6 所感、提言事項、  
課題等

文化芸術とスポーツは、昔からまちと密接に結びついており、人々の精神活動を育み、健康を促進し、まちの魅力を向上させる重要な要素である。

自治体と文化芸術・スポーツの関係を再評価し、役割について議論する重要性がある。

文化では、可児市の文化創造センター「アーラ」での地域コミュニティと文化を融合させた「社会包摂型劇場経営」の取り組みや八戸市「ポータルミュージアム はっち」での、観光・地域資源・食文化など市民を主体とする様々交流の拠点としての取り組みが進められている。

スポーツでは、茨城県鹿嶋市鹿島アントラーズは鹿嶋市と地域連携協定締結し地域教育、地域医療への支援を行っている。

また、長野県東御市では標高差1500mの地勢を活かした「湯の丸高地トレーニング施設」を建設し地域医療に貢献を果たしている。

自治体の文化芸術とスポーツ政策を成功させるためには、一つ目に「理念・ビジョンの確立」である。政策の目的と目標を明確に定義し、政策がどのような公益を実現しようとしているかを明示する必要がある。

文化芸術とスポーツが多く価値や機能を持つことを考慮し、広範な視野で方針を策定することが重要である。

二つ目に、「粘り強い継続的な取り組み」である。

文化芸術とスポーツによる影響は短期的なものだけでなく、中長期的に現れる。地域の資源を有効に活用し、継続的なマネジメントや保護を通じて地域文化を育むための戦略を立てる必要がある。

三つ目に、「市民の主体性の発揮」である。市民は文化芸術とスポーツ政策の主役であり、理解と共感が不可欠である。

市民が地域の文化やアイデンティティについて議論し、自己決定能力を養う機会を提供することが必要であり、行政は多様な市民を取り込み、市民が政策形成に参加しやすい環境を作ることが求められる。

これらの視点を考慮して、文化芸術とスポーツを通じたまちづくりを成功させるための方法を模索することが自治体にとって重要であることを感じました。

<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p><b>【議員氏名】 奥村孝宏</b></p> <p>「アートには人の心を動かす力がある。」基調講演での岐阜市出身の日比野克彦（東京芸術大学長）さんの言葉である。</p> <p>これからは「こころの産業」が求められてくる。そのためには、美術館のありかたを見直す必要があるとのこと。</p> <p>また、熊本市の事例として市の総合計画を冊子にまとめるだけでは市民に伝わらない。という話から、現在「第8次総合計画」を作成中の本市としても熊本の事例を参考にすべきだと思った。</p> <p>熊谷八戸市長の主報告では、八戸市で取り組んでいる事業として、新たな交流と創造の拠点として「八戸ポータルミュージアム」を開館し、地域資源の魅力を創出・発信し、文化芸術、産業、観光、市民活動のほか子育て支援を一体にした施設を運営しているほか、「本のまち八戸」として、書店機能を持つ公営のブックセンターを運営し『読書会』を開催するなど地域交流の一翼を担っていることは、素晴らしいことだと思った。</p> <p>次に、文化事業ディレクターで演出家の吉川由美さんの一般報告では、中心市街地の活性化に向けて市役所職員が一生懸命取り組んでいたものの高校生など若い市民の意見とギャップがあり、改めて中心市街地の再生の起爆剤として「酔っ払いに愛を」を合言葉に八戸の横丁文化を復活させた。との話があった。</p> <p>その他、パネルディスカッションなどが行われた。</p> <p>《提案として》「第8次総合計画」をいかに市民に伝えるかをしっかり検討すべきだと思った。</p> <p>また、市民は文化芸術より道路整備を望むが、本市を見ると、美術館・博物館等の文化芸術施設は十分なのか改めて考え直しました。</p> <p>今後、人のこころを動かすような文化芸術施設及びふるさと教育の推進が必要だと考えます。</p> <p><b>【議員氏名】 成田康弘</b></p> <p>全国都市問題会議（全国市長会）が、10月12日・13日 全国屈指の水産都市、有数の工業都市として発展を遂げている、文化芸術・スポーツ活動も盛んな「八戸市」で開催。</p> <p>「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」で、講演・報告・パネルディスカッションなどを聴講した。</p>
----------------------	--

<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>自治体行政において、「文化芸術」と「スポーツ」は、社会教育や学校教育との関係性が大きい。</p> <p>実際、多くの自治体で、芸術やスポーツが教育委員会の所管とされていることが多く、まちづくりの骨幹に据えようとする自治体により精力的になされる。</p> <p>「文化芸術」と「スポーツ」の由来やその展開過程には、少なからず相違はあるが、地域課題の解決や地域経済の活性化へ寄与し続ける有望なツールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化施設の建設や文化財保護の取り組み</li> <li>・スポーツは、衰退する地域コミュニティを再生する手立て</li> </ul> <p>■ 基調講演</p> <p>日比野克彦（東京芸術大学長、アーティスト） 岐阜市出身 「アート役割って何だろう？」</p> <p>アートとは ①「生きる力」 ②「多様性ある社会を築く基盤」 ③「社会的な課題に対して持続的に取り組み続けていくには大切なものである」</p> <p>と捉え、人が集まりコミュニティが生まれ、複雑な社会的課題を解決していくと結んでいる。</p> <p>■ 「文化芸術」「スポーツ」を通じた、自治体の政策のあり方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理念・ビジョンの確立 <ul style="list-style-type: none"> <li>・両者が持つ、多様な価値を十分に引き出すこと</li> <li>・両者の振興や活用を通じて、政策的効果やまちづくりを追求</li> </ul> </li> <li>2 粘り強い継続的な取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・両者の資源をどのように事業化し持続的にマネジメントするか、活用のための戦略と戦術を丹念に練ることが必要</li> <li>・自治体は勿論のこと、関係する多くの人々の地道かつ息の長い努力が不可欠</li> </ul> </li> <li>3 市民の主体性を発揮 <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの主役は市民であることが重要</li> <li>・行政は、市民が主体性を発揮するための条件整備を追求</li> </ul> </li> </ol> <p>自治体行政から「文化芸術」や「スポーツ」を活用した、魅力的なまちづくりプロジェクトの重要性を認識する会議であり、本市においても活用できる取り組みを前向きに検討したい。</p> <p>来年度の全国都市問題会議は、兵庫県姫路市で開催予定。是非とも、参加を希望する。</p>
----------------------	---

<p>6 所感、提言事項、 課題等</p>	<p><b>【議員氏名】 黒川昭治</b></p> <p>1日目は、「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」テーマに、“アート役割と何か？”と題した基調講演、開催市の市長から“八戸市の文化・スポーツによるまちづくり”の報告があった。</p> <p>その後、文化事業ディレクター 吉川氏から、“まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から生まれる”との報告があった。</p> <p>そのほか、長野県東御市町の“標高差1,500mの地域を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出”、鹿島アントラーズ副社長 鈴木氏の“まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用”と題した一般報告があった。</p> <p>2日目は、教授・市長数名によるパネルディスカッションがあった。</p> <p>2日間の報告やディスカッションで、まちづくりの基は、「人の心」であることを再認識した。</p> <p>人の心を動かすのが、スポーツやアートである。そして、発展した都市には、心の集まりである大きなコミュニティ（コミュニケーションが取れる場所）がある。</p> <p>開催地の八戸は「はっち」と称するポータルミュージアムで、地域資源の魅力を生み出し、文化芸術、産業、観光、市民活動、子育て支援といった各施策を一体とした取り組みを行っている。</p> <p>アートとは何か？→心に作用する</p> <p>人の心を動かすことは、その人の行動に起因する。一人ひとりの気持ちの変化が、心の動きが活性化には必要となってくる。</p> <p>しかし、こういったものはKPIにて計れない部分が多く、結果が数値になりにくく、事業継続の足かせになる可能性があると思われる。</p> <p>これらを多治見市に反映させるにはどうするかが課題である。今あるものを伸ばすか、新たに創出するか。今まで取り組んできたものを発展させつつ…というのもある。</p> <p>静岡県沼津市では、スクールアイドルのアニメがヒットしており、当市の「やくも」も可能性を秘めていると考える。</p> <p>これらを含め、コミュニティの創出が課題となるのではないかと考える。</p>
---------------------------	--



